

絵画コミュニケーションの報告

～絵を通して出会う新しい自分～



8施設8名

1. はじめに

私たちは、エンパワメントを目的としたツールの作成に取り組みました。方向性を決めるにあたり、何をすることが利用者のエンパワメントにつながるのか、何を行えば、力をつけたといえるのだろうか、真剣に悩みました。

いくつか出た案の中から私たちが選んだ課題は、自己決定、自己選択とは何なのか、もう一度見つめ直そうというものです。その人が、その人らしい生活を送る力、住みたい場所、やりたい仕事・遊びなどを、選んで、訴える力、言わば「自己実現力」をつけることこそが、エンパワメントにつながるのではないかと、考えました。

しかし、どういった手段を行えば、利用者の選ぶ力を引き出せるのか、壁にぶつかりました。職員の立場からなのですが、日々利用者と真摯に向き合ってきた経験の中で、利用者に、希望や要望(=Wish)を聞いても、経験が無いことを想像することの難しさがあると感じています。また、見通しが持てないことへの不安などから、その人が、過去に経験したことの範囲内でしか選べない傾向があることを、多かれ少なかれ経験していて、歯痒い思いをしていたからです。それ以前に、他に選択肢があることすら知らない方も、多いのではないかと感じていました。

そのために、普段、生活環境を同じくする利用者や、職員との関わりの中だけでは得られない情報を、生活環境の違う人が集まることにより、得られるのではないかとというものです。多くの人との出会いや、皆で楽しく話をする事により、互いに刺激を受けて、普段欠けているものが、補えるのではないかと考えました。そのための手段が、絵画コミュニケーションです。

2. ツールのポイント

(様々な活動が考えられる中で「絵」という活動内容を選んだ理由)

- ①利用者にとって間口が広く、親しみがあること
- ②思いを形にしての、意思表示をしやすいもの
- ③見ている側も、視覚的に分かりやすいもの
- ④分かりやすく理解して、話しを広げやすいもの
- ⑤利用者、職員共に、同じ土俵に立てるもの

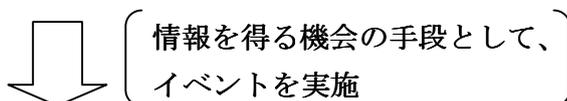


私たちは、上記5点を理由にして、絵を選択しました。

ここで重要なのは、絵を描くこと自体が目的ではなく、一緒に絵を描くなかで、その絵を話題にして、話しを広げていくことが、目的ということです。しかし、単なるお楽しみ会になってしまっただけでは意味がないので、職員が様子を見ながら、利用者同士を互いにつなぐ役割を意識して、共に楽しみながら、仮説の検証を行いました。

(A2グループが立てた、仮説)

社会資源を知ることにより、選択の幅が広がる



多くの人に出会うことで、自然にいろいろな情報に触れることにより
【あの人の仕事(生活)は、面白そう、大変そう、楽しそう、疲れそう・・・】
今の自分の仕事(生活)と比較した視点で、考え方が広がっていく。



新たな情報を知ったことによって
違うことを選ぶこと

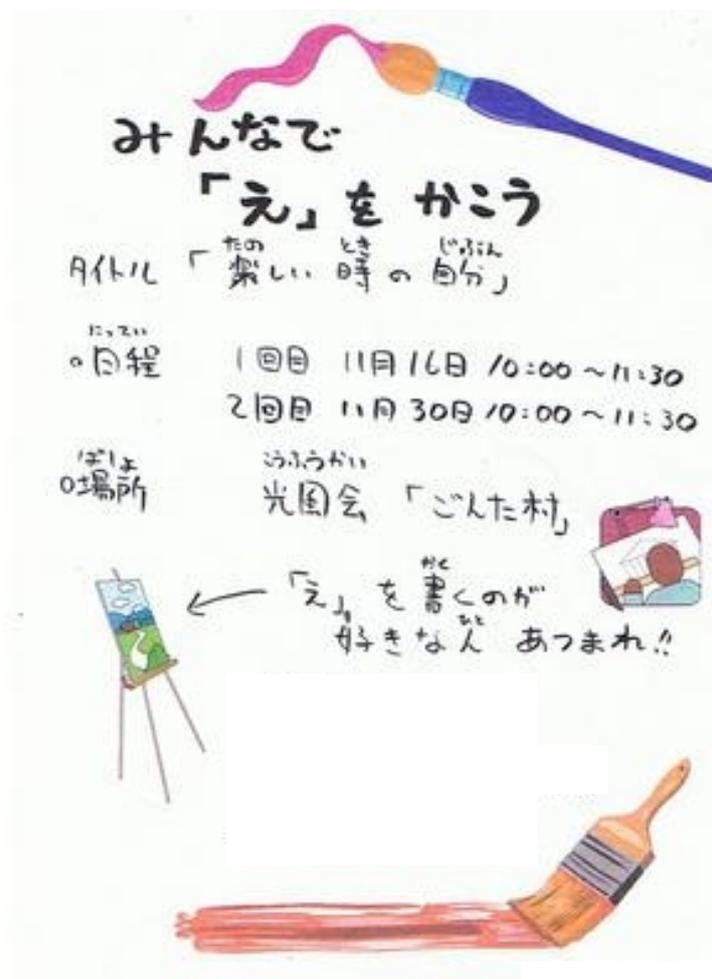
新たな情報を知った上で、今やっている
ことを選ぶこと

(結果)

自分で選ぶことにより、自分の意志で生活している実感が高まっていく。
また、選択の幅が増えることにより、世界が広がっていく。

3 実践報告

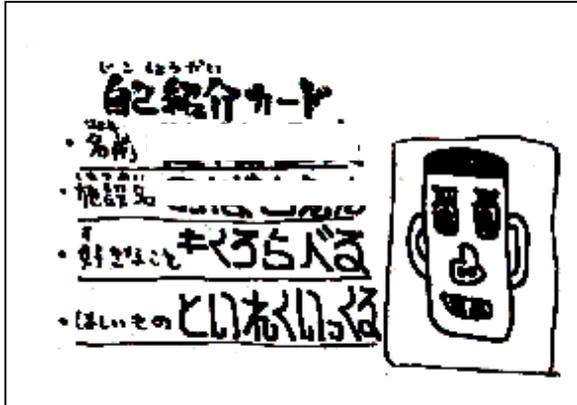
事前に準備した、
募集ポスターと
職員用の、当日の
流れ確認表です。



11月16日の予定			
時間	スタッフの動き	利用者の動き	その他
～10:00 集合	・利用者の席への誘導 ・画材準備 ・	・開始まで待機	・画材 ・座席表 ・上履き
10:00～10:15 開始、運営説明、自己紹介	・イベント説明	・簡単な自己紹介	・自己紹介カード ・ホワイトボード
10:15～10:40 アートワーク	・作品に対する評価等、声かけ及び利用者間のコミュニケーション支援。	・絵を描く。 ・他者とのコミュニケーション	・画材
10:40～11:00 お茶休憩	・利用者間のコミュニケーション支援。	・他者とのコミュニケーション	・自己紹介カード ・お茶
11:00～11:20 アート発表会	・利用者が発表しやすいように支援。	・各自順番が着たら発表。	
11:20～11:30 次回の予告、集合写真	・11月30日の挨拶を実施。 ・解散前に全体での集合写真を撮る。	・挨拶 ・集合写真撮影	・カメラ

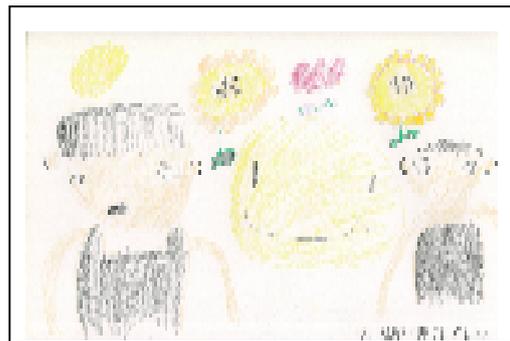
簡単に整理しました・・・動き、備品、細部の活動の意味をじゃんじゃん付け足してください!! ヨシオカ

はじめに、事前を書いてきてもらった、自己紹介カードを交換しました。

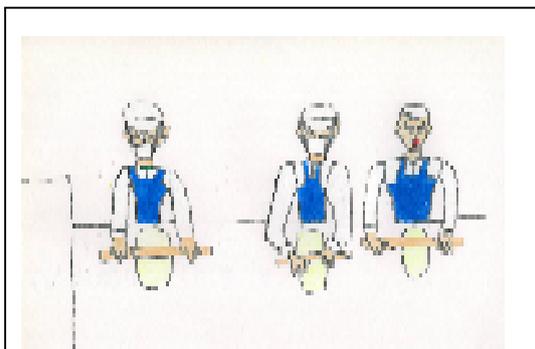


作品

1回目「楽しいときの自分」



2回目「自分の仕事」



利用者から聞き取ったアンケート結果

(回答者 10名)

● 自己紹介カードはわたせましたか？

・渡せた 7名 ・男の人に渡せました ・友達になるのに良かった 無回答 1名

● 友人はできましたか？

・できました 3名 ・できました コロッケを作って人とお友達になりました
・名前を忘れた ・(3人くらい)バザーにきてくれるそうです ・職員の人お友達になった
・あまり話せなかった ・話せなかった。挨拶をしようと思った 無回答 1名

● やる気が出ましたか？

・出ました 2名 ・出ました やりたいことも色々ある事を紹介したい ・やる気だた 2名
・やる気だた 泊まりたい ・やる気マンマン ・絵を何を描いていいか分からなかった
・お仕事の絵を描きました。見ないで書きました。 無回答 1名

● つぎは何をしたいですか？

・もっとお絵描きしたいです ・またやりたい。手形をみんなで作る ・ビデオをみたい、映画
・好きな絵でも自由に描いたらいいかなと思った ・習字やりたい ・ビーズ、絵
・趣味の事、興味がある事を聞いてみたいなど思っています 無回答 3名

● ご自由にお書き下さい

・またやりたいです
・好きなテレビ番組や歌手の事を聞いてみたいなど思っています。得意な事を聞いてみたいなど思っています。もっと友達になって欲しいなど思っています。私みたいな若い子がいたらいいなど思っています
・のぼら園に泊まりたい
・次回の時に踊りの写真を持って行って皆にみせたいです。
・皆で集るのは、何を話していいか分からなくて苦手だと思った。自分でも上手く言えないから
・色々な絵が展示していました。作品を見る事が出来ました
・絵画会ありがとう。施設の友達に会えて良かったです。またいつか会いましょう。いい年を。
・絵 1名 無回答 2名

アンケート以外で出た意見、希望

- ・ゆめに行ってみたい
- ・のぼら園の短期入所を利用したい
- ・コロッケを作ってみたい

4. 今後の課題・まとめ (実践を振り返って)

<p>分析</p>	<p>(ねらい通りだったもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他施設の利用者との前向きな交流を通して、興味を持ってもらうことが出来た。 ・後日、参加者が話題にしたことで、参加していない人にも興味も生まれた。 ・絵による視覚的な効果により、具体的で、視覚的に捉えることができていた。 ・絵は、否定されることなく、得意分野を伸ばせるものと、確認された。 ・絵を話題にして、話を広げていくことは、やりやすかった。 ・テーマの選び方により、様々なねらいに対応できる可能性があると感じた。 ・「人とつながる」という目的は、おおむね達成できたと思う。 <p>(他施設の利用者・職員、自分の施設の利用者・職員、自分自身とも向きあう)</p> <p>(ねらいとは外れていたもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一回目と二回目で、絵の変化があったが、それが、絵画コミュニケーションによるものなのか、元から持っている力だったのか、判断が難しかった。 ・テーマ通りの絵を、描いてもらえない人もいた。 ・一日ですべてを完結させるのは、難しいと感じた。 ・同施設利用者の相性は考慮したが、他施設利用者との古い人間関係までは、想定できなかった(今回は、3例あったが、仲が良かったので問題なし)。 ・緊張からか、体調を崩す利用者がいたこと。 ・アンケートだけでは、希望や要望を、きちんと反映するのは難しかった。 ・お楽しみ会にしないという原則や、意見を引き出しながらも、誘導しないようにしていくことは、予想よりも難易度が高いものであった。
<p>ねらいに対する成功例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆめ」に行ってみたい ・のぼら園の短期入所を利用したい ・コロッケを作ってみたい <p>これらは、絵画コミュニケーション以前には、なかった希望です。アンケートや会話のなかで、できました。今後は、この本人の思いの具現化が、課題です。</p>
<p>今後の改善案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・準備期の職員打ち合わせにて、当日の流れだけではなく、参加する利用者の情報を共有し、きちんと把握していくこと。 ・開始期と展開期を分けるために、絵を描く日と発表日を分けること。 ・絵の発表をした後で、話をする時間を長めに設けること。 ・利用者の思いを引き出しやすいように、アンケート内容を吟味していくこと。 <p>※上記内容は、別紙ツールに、改善案として反映しています。</p>

参考文献：『レクリエーション活動援助法』 福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版

研修で図解を中心に核心を議論しあい、権利擁護の「自分なりの理解」が整理できました。また、他施設職員とネットワークが出来ました。結果、「資質向上」や「横浜の社会福祉を築く」道筋が見えてよかったです。

A 氏

横浜市中堅職員研修を通し、科学的に支援を行う難しさ大切さを改めて痛感しました。日常の業務が感覚的であることを再認識し、業務の振り返りを行っていきたいと思います。多くの方々の協力があり研修ができたことをうれしく思います。ありがとうございました。

B 氏

他施設で働く職員が集まって、エンパワメントという目標に向かって、議論を重ね、作り上げていくという経験で、作成したツールと同様に、良い情報交換、グループワークによる相乗効果を実感できました。今回このような機会を与えてくださった事に感謝いたします。

C 氏

本研修にて「権利」は守ってくものから、創ってくものへ。この言葉が私の胸に強く響きました。そして何よりグループワークを重ね、他事業所の方々と新たなネットワークが築けたことが大きな財産です。今後も利用者さんの「笑顔」と「苦悩」に寄り添い、日々精進してまいります。

D 氏

昨年につき、この研修に参加させていただきました。グループワークには昨年よりかなり多くの時間を費やしましたが、より使い易いツールができたと思います。また、多くのグループワークを通じ、他事業所の方々とも親交を深める事ができました。今後は、ツールを基に権利擁護の意識を現場でより深く浸透させると共に、今回の研修で築かれた横の繋がりを大切にしつつ、より良い支援者となる様に努力していきたいと思います。

E 氏

今回初めての参加でしたが、改めて、利用者さんにとって“自分らしさ”を追及する事、また、それを YES も NO も選択できることの大切さを今回学ぶ事ができました。私、自身もとても生かされた研修でした。ありがとうございました。

F 氏

ひとつの取り組みに対し長い時間かけて考える事はとても大切で、重要なのはずっと視点を変えながら考えるのをやめないことだなと思いました。

G 氏

施設の垣根を越えて、多くの人と、出会い、ふれあい、分かち合った体験は、とても新鮮でした。これからも、人と人との関係性を軸に、本人主体の大原則のもと、日々の支援に向き合っていきたいと思っています。

H 氏

「権利は守るものではなく作るもの」これが、絵画コミュニケーションを行うことによって、得られた実感です。最後に、アートに囲まれた、今回のワークショップに恵まれた環境を、提供していただいた、光風会様に、心よりお礼申し上げます。

以 上